

川口市立医療センター広報紙

はな みず き
花水木

特集

2021.9.1 Vol. **51**

認知症について

～9月は「世界アルツハイマー月間」です～



撮影場所：グリーンセンター



川口市立医療センター
イメージキャラクター 「みみたーず」
“よく聴き・よく診て・よく説明する”

基本理念

市民に信頼され、
安全で質の高い医療を提供します

水防訓練、配食訓練を実施しました

9月1日は防災の日です。当センターは、災害時に備え、常時さまざまな訓練を行っています。

近年、全国各地で豪雨や台風などの自然災害による被害が発生しています。当センターでも、大雨で道路や建物が浸水する内水氾濫の発生を想定し、6月に水防訓練を実施しました。水が流れ込む危険がある1階及び地下1階の職員（委託職員含む）が参加し、患者の避難経路などを確認するとともに、上階へ退避させる医療機器や医薬品の優先順位等について検証を行いました。

また、7月には配食訓練を実施しました。災害時には、限られた人員で、迅速に患者へ備蓄食を配布する必要があります。今回は、正面玄関や特定のエレベーターが使用できないという想定で、搬入経路を考えながら、防災倉庫から院内へ備蓄食の運搬を行いました。さらに、運搬された食品の仕分けや、入院患者役の食事の介助などの訓練を実施しました。

胃ろうなど経管栄養に使用するコネクタを変更します

近年、医療業界では接続コネクタの誤接続などの医療事故防止のため、統一国際規格の導入が進んでいます。

当センターでも、10月から経腸栄養分野における国際規格製品の導入を予定しています。特に、胃ろうなどの経管栄養をご使用の患者さんには大きな変更となります。詳細は、診察の際に各診療科の医師・看護師や患者支援センターへお問い合わせください。

温かいメッセージに感謝いたします

市内の小中学校などから、心のこもったたくさんのメッセージが寄せられました。ありがとうございました。

いただいたメッセージは院内に掲示しています。



認知症について

～9月は「世界アルツハイマー月間」です～

脳神経内科 部長 塩田宏嗣

認知症とは

認知機能は、我々の脳がうまく働いて可能となる記憶、見当識(時間、場所、人の認識)、思考、言語、判断などの能力のことです。認知症とは、一度正常に発達した脳でその働き(認知機能)の障害が起き、特にもの忘れ(記憶障害)を主な症状とする病気を指します。もの忘れが全て病気(認知症)の訳ではなく、表1のように加齢によるもの忘れ(正常老化)は、認知症と区別されます。

表1 加齢によるもの忘れ(正常老化)と認知症によるもの忘れ(病気)の違い

加齢によるもの忘れ	認知症の疑いのあるもの忘れ
<input type="checkbox"/> 体験の一部を忘れる	<input type="checkbox"/> 体験したこと全体を忘れる
<input type="checkbox"/> 記憶障害のみがみられる	<input type="checkbox"/> 記憶障害に加えて判断力の低下 ¹⁾ や実行機能障害 ²⁾ がある
<input type="checkbox"/> もの忘れを自覚している	<input type="checkbox"/> もの忘れの自覚に乏しい
<input type="checkbox"/> 見当識の障害はみられない	<input type="checkbox"/> 見当識の障害がみられる
<input type="checkbox"/> 取り繕いはみられない	<input type="checkbox"/> しばしば取り繕いがみられる
<input type="checkbox"/> 日常生活に支障はない	<input type="checkbox"/> 日常生活に支障をきたす
<input type="checkbox"/> きわめて徐々にしか進行しない	<input type="checkbox"/> 進行性である

- 1)判断力の低下：無駄な買い物をする、季節にあった適切な服が選べない、など
2)料理の味付けができなくなる、電車やバスの乗り方がわからなくなる、など

認知症の予防

健康的な生活は認知症の予防につながると考えられており、①知的活動(熱中できる趣味を持つ、本や新聞を読む)、②適度な運動(足腰を丈夫に保つ)、③適切な栄養(塩分、脂肪をとりすぎないバランスの良い食事)、④社会参加(人づきあいを大切にする、くよくよしないで明るくストレスを溜めない)、⑤良い睡眠、などを心がけ生活習慣病をしっかりと予防・治療(かかりつけ医にきちんと診てもらおう)することが大切だと考えられています。

認知症の種類と主な原因

認知症には、①現時点では根本的な治療が困難な認知症と、②薬や手術によって予防や治療が可能な認知症があります。①にはアルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症などがあり、②には血管性認知症、正常圧水頭症、慢性硬膜下血腫、甲状腺機能低下症、ビタミン欠乏症などがあります。もっとも多いのがアルツハイマー型認知症(認知症の約6割を占める)で、脳にアミロイドβという異常なタンパク質が溜まることで病気が進むのではないかと考えられています。

当センターのもの忘れ外来

当センターでは、毎週火曜日の午後に予約制のもの忘れ外来を行なっています。かかりつけの先生方からご紹介いただいた患者さんに、神経診察、簡易知能検査、脳画像(MRIや脳血流検査)、血液検査などを行い、治療可能な認知症を見逃さないようにすること、認知症の病型(種類)診断を行うこと、によってその後の方針を決めます。その上で検査結果、薬剤選択やフォローアップなどについて、かかりつけの先生方へ情報をお知らせして連携して診療を行っています。

認知症の啓発(世界アルツハイマーデー)

1994年「国際アルツハイマー病協会」は、世界保健機関(WHO)と共同で毎年9月21日を「世界アルツハイマーデー」と制定し、認知症の啓発を実施しています(9月を「世界アルツハイマー月間」と定めています)。今年度の標語は、「この街で笑顔で生きる認知症」(下記ポスター)であり、認知症への理解を広める活動が組まれています。



トピックス

2021年6月、米国食品医薬品局(FDA)が、アルツハイマー型認知症(早期例)の病態に作用する可能性(脳内のアミロイドβを減少させる)を初めて示した薬として、迅速承認した薬がアデュカヌマブです。ただし、この薬の臨床的評価がどうか、という点は今後のさらなる検討が必要と考えられており、現時点では冷静に見守る必要があると思われます。

赤ちゃんの画像配信を 始めました

NICU限定

新型コロナウイルス感染症により、人と人とのコミュニケーションは大きく変化し、対面を避けるため病院等では面会制限が続いています。それは、当センターのNICU(新生児集中治療科)も例外ではありません。

NICUには、早く生まれたり具合が悪いなど、サポートが必要な赤ちゃんが入院しています。場合によっては、数ヶ月単位での入院になります。生まれた直後に親子が離れ、長期間赤ちゃんの様子がわからないままにいることは、不安が募るばかりか家族としてのスタートという点でも好ましいとは言えません。

そこで、NICUでは面会制限中の新たなコミュニケーション手段の一つとして、アプリを用いたご家族への画像配信を始めました。

会えない時の我が子の様子を知ることができ、ご両親はもちろん、直接会えない祖父母やご兄弟など、多くのご家族で赤ちゃんの様子を共有できます。それが家族の話題になり、みんなで赤ちゃんの成長を喜ぶるとご好評いただいています。毎日の診療や看護の合間に画像を撮影し送ることは大変ではありますが、手応えを感じています。

コロナ禍でもできることを行いながら、NICUスタッフは赤ちゃんの成長をサポートしていきます。

※画像配信は、NICU病棟以外では行っておりませんのでご了承ください。



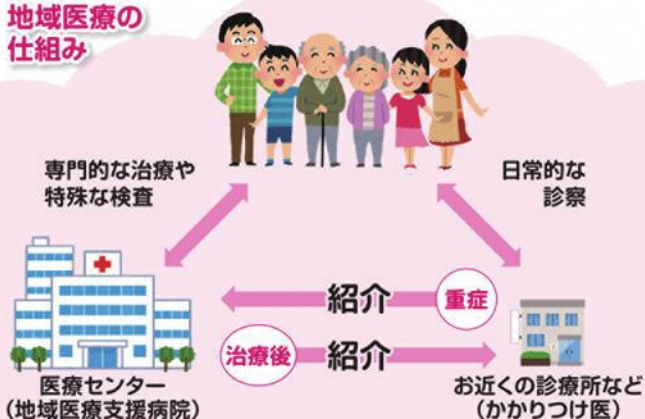
▲撮影風景



実際の画面▶

※写真の使用に関してはご家族のご了承をいただいております。

地域医療の 仕組み



バス案内(国際興業バス)

川口駅東口(8番)発

川口市立医療センター経由 新井宿駅行

西川口駅東口(1番)発

川口市立医療センター経由 新井宿駅行

蕨駅東口(1番)発

川口市立医療センター経由 新井宿駅行

赤羽駅東口(6番)発

新井宿駅経由 川口市立医療センター行

循環バス(川口市コミュニティバス)

みんななかまバス

埼玉高速鉄道をご利用の方は

埼玉高速鉄道 新井宿駅から徒歩10分

駐車場のご案内

駐車料金 4時間まで200円(その後1時間ごとに100円)

総合受付の「5」会計受付にてパーキングカードを販売しております。
(1,000円券・3,000円券)

駐車台数 約600台収容



ホームページ

発行責任者 川口市立医療センター 大塚 正彦

編集 広報委員会

〒333-0833 川口市西新井宿180 ☎048-287-2525(代表)